



軽種馬防疫協議会 ニュース速報 (号外)

2020年6月4日
軽種馬防疫協議会 事務局
(JRA 馬事部防疫課)

北米における馬鼻肺炎の神経型の流行

今年の冬-春シーズンは、北米大陸において馬鼻肺炎の神経型が連続的に発生しています。以下に、現時点までのその状況を要約いたしました。これらのオリジナルのデータは、International Collating Centre (ICC) が公開しているものであり、原文は ICC のホームページ (<http://www.aht.org.uk/disease-surveillance/international-collating-centre>) からアクセスできます。

発生状況

米国では、4月13日(カリフォルニア州)、4月27日(ワシントン州)、5月16日(ノースダコタ州)および5月26日(アイオワ州)に、馬ヘルペスウイルス1型(EHV-1)感染による神経型の発生が報告されています。また、カナダでは5月16日に、オンタリオ州にあるウッドバイン競馬場(カナディアンインターナショナルステークスなどの国際G1競走の開催場として有名)において、同じ棟の厩舎に飼養されていた2歳のサラブレッド2頭がEHV-1感染による神経型と診断されました。現在、すべての馬は、同競馬場の管理団体(Alcohol and Gaming Commission of Ontario)の許可なく同競馬場から退厩することは禁止されています。さらに、同じ棟の他馬は、調教などの理由であっても屋外へ出すことは禁止されています。このような措置は、通常、1ヶ月程度継続されることが普通ですので、現在、新型コロナウイルスの流行のため同競馬場での競馬開催は行なわれていませんが、今回の神経型の発生により、再開がさらに遅れるのではないかと危惧されています。

このウッドバイン競馬場における原因 EHV-1 株は、神経組織への病原性が高いとされる遺伝子の変異を有していると考えられています。その遺伝子変異はウイルスゲノム(約15万塩基対)のうち、たった1つの塩基配列が変化しているものですが、明らかに馬の神経組織への病原性が上昇させることが知られており特に警戒が必要です。昨年、日本では、この遺伝子変異を持っている EHV-1 株か否かを迅速に区別できる診断法(LAMP-FLP法)が開発・導入されましたが、幸いにも、現在のところ、同遺伝子変異を有する EHV-1 株は摘発されていません。

馬鼻肺炎とは？

馬鼻肺炎は、馬ヘルペスウイルス1型(EHV-1)あるいは4型(EHV-4)の感染によって引き起こされる疾病の総称です。EHV-1感染の場合は、呼吸器症状(呼吸器型)、流産あるいは生後直死(流産型)、あるいは後駆麻痺を主徴とする運動失調(神経型)の3つの臨床型が知られています。毎年、日本では、おもに若齢馬群での呼吸器型の流行が、また、生産地では流産が散発しています。本症の予防として生ワクチンの接種が実用化されていますが、現在のところ、神経型の予防は効能に入っていません。神経型を発症した馬を早期に診断し、他馬から隔離することが、重要な防疫対応となります。なお、EHV-4は、原則として呼吸器型のみを引き起こします。